

「28th ミーティングに関する報告書」(2002.9.7)

”最近気になる危機管理”

概要

「危機管理という単語をご存知でしょうか？ご存知だとしても、各人各様にその単語は使用されているのではないのでしょうか？」

・・・という感じと、

「9.11事件後の、世界におけるテロの情勢。」

・・・という感じでした。

これにつき、11名のご参加により、白熱したディスカッション&ディベートが行われました。

さてさて、ミーティングですが・・・

まず、参加者全員による恒例の「近況報告」・・・

- 西日本交流会縦断ツアー>>各地域の特徴
- 防災訓練にあけくれる日々>>パフォーマンス的で実戦的でない
- 幼稚園にて保母さんにパソコン教授>>児童にも教えたい
- 組織作りに興味があります
- 某生保の資本提携
- 不良債権ってどんな感じか
- 理念・ビジョンの経営者・従業員の共有による組織の構築
- 商号にアルファベット・算用数字が使えるようになる
- 事前決算のお話し。コストカットのため危機管理予算を全額カットのお話し。
- 転職

・・・などなど。

また、「危機管理というキーワードからイメージするもの」というお題に対して・・・

- 想像を膨らませること
- IT・PC関係。データ管理
- 他人からみるととんでもないことなのに本人は気付いていない  
>>他人から客観的な意見を聴くこと
- 生命保険。また、企業の2代目・3代目の危機管理の甘さ

- 危機管理の対象として、身の回りと会社が考えられる
- 若王子さん誘拐事件。また、答えのみつからないもの。
- 書類でのやりとりでの防御
- 会社であれば、とにかく倒産させないこと。キャッシュフロー。
- 全銀協でのデータ管理の実態

・・・などなどでした。

・・・企業を対象とするお答えが多かったですね。でも、ばらばら。

さて・・・

”最近気になる危機管理”の浅利さん（危機管理コンサルタント会社代表）の発言となりまして・・・

大筋としては、

- ① 日本危機管理学総研の紹介
  - ② ディスカッション「あなたならば、どうする？」
  - ③ 9.11について
- ・・・でした。

まず、①日本危機管理学総研の紹介としては、

前提として、「人の命を守る」ことをもって。「危機管理」と考えている。

- 1) 危機管理理論の研究  
「危機管理」というキーワードの共通定義の構築。
- 2) 事例の研究  
現在は、池田小学校事件を、「事前予測」「事前対応」「即時対応」「2次的対応」などのカテゴリーにて、分析研究。

次いで、②ディスカッション「あなたならば、どうする？」として、

お題「深夜あなたの家の玄関をどんどんとたたいている人がいます。どうも女性らしく、「助けてください」と叫んでいます。あなたならば、どうしますか？」

- とりあえず、家に入れる。事情を聴く。
- 水商売系は、×。ヤ○ザがからんでるかもしれないから。

110番に電話する。

- 扉越しに事情を聴く。また、その住宅の周辺の治安環境にもよる。
- その女性の近くに人がいるようならば、×。
- バットなどを持って飛び出す。  
もともと住んでいたのが田舎なので、困っている人がいれば助ける。
- 実際住んでいるのマンション。とにかく扉越しに外の状況を確認。  
また、なぜ、自分の家に助けを求めるのか確認。
- 助けを求められたら断れない。とりあえず、チェーンをして、扉を開ける。
- 助けない。110番へ電話する。

・・・などのお答え。

とりあえず、模範回答としては、「扉を開けずに、110番」らしいのですが、それでも、浅利さんによると、「危機管理に答えはない」とのこと。

・・・状況・情勢によるということ。

### ③9. 11について、

#### 1) 9. 11までの流れ。

決して突発的な事件ではなく、根は深い。

もともと、アルカイダによる事件は頻発しており、兆候はいくらでもあった。

テロというよりは、アメリカという集団と、アメリカを否定する集団の対立。

・・・たとえば、オウムがそうであったように。

#### 2) 9. 11がもたらした恐怖

カウンターパンチというよりは、ボディブローではなかったか。

インパクトはあるものの単発的な事件というよりも、9. 11後の経済活動へ深刻な影響を及ぼすものではないか。

グローバリゼーションや国家による安全保証（あるいは、という幻想）の崩壊。

・・・たとえば、再保険、不動産の証券化、SCMなど。

#### 3) これからのテロの可能性

同規模テロの1年以内発生の可能性あり。

- ・・・テロリストの経済力や心理的な部分から。
- ・・・パフォーマンス性が上がっている。

しかし、テロについては、

「おきるかおきないかでなく」

「いつか必ずおきるとの認識を前提に、対応を考えることこそ重要」

とのこと。

また、日本が標的にされる可能性は高まっている。

沿革としては、オウム事件もあり、そして、1994. 12. 11の沖縄上空でのジャンボ機の小規模爆破に端を発する、アジア発アメリカ行きの12機のジャンボが狙われた「ボジंगा計画」もあった。

つまりは、先進国（アメリカ・グループ）の中で、日本がもっとも警備が弱い。

たとえば、標的として、横須賀の米海軍基地。

貿易センタービル。霞が関ビル。

ここで、ディベートとなりました。

「テロに対して危機管理は可能か否か」について。

- 日本でのテロへの警鐘はわかったが、それに対する対応の提示がなければ、片手落ちではないか？
- テロ予測の精度は？
- たとえば、飛行機が突っ込んできたとして、どんな対応ができるのか？

・・・とった疑問からです。

これに対して・・・

- 少なくとも、テロへの事前知識がなければ、そもそも対応ができない。
- また、テロについては、興味・関心を持つ、そして考える機会が絶対的に不足している。  
まずは、そこからで、テロの専門家にしても、テロへの対応の研究は、始まったばかり。
- なにより、テロへの対応も自分自身で考えることが必要。

また、

- テロへの認識はあるが、だからこそ、対応の手段はないのではないか。

なので、なにも事前にはしない。

・・・との意見も。

さらに、

■ 事前予測のための監視体制の強化には。

>>人権面から問題が多い。

■ テロの根絶はありえないには。

たとえば、貧困が全ての原因ではなく、アルカイダは高学歴・富裕層の集まり。

>>少なくとも、貧困を原因とするテロをなくす政策は必要ではと。

>>また、テロの研究者に、

そういった政治・政策の視点で語る人が少ないのではと。

(あるいは、一般人にもわかる言葉を持ち合わせない?)

■ テロについては、頻出度（認知度）が低いわりに、リスクの大きさは、人命や経済システムそのものを対象としており、また、リスク回避のコストも、高くなることが予想できる。

>>こういったものに対する危機管理はやりにくい。

しかしながら、最後に、

■ テロへの危機意識の喚起は必要。

■ 対応としても、国家任せにしない、個人あるいは民間団体でのものが必要。

・・・とのまとめがありました。

・・・というような喧喧諤諤な感じで、あっという間の3時間でした。